**ASEAN 大使通信**
**第７回　日 ASEAN 協力案件をどう形成するか**

2023 年（令和 5 年）６月 30 日

日 ASEAN 友好協力 50 周年パネル展示式典
（2023 年６月６日、ASEAN 事務局提供）

いよいよ本年も折り返し地点になりました。年末の日 ASEAN 特別首脳会議に向けて、関連する会議や行事が次々と開催されています。

今月は、東京で日 ASEAN ビジネスウィークが開催され、カオ・キムホン ASEAN 事務総長が就任後初めて訪日しました。ジャカルタでは日 ASEAN 合同調整委員会（AJJCC）が開催され、ASEAN 加盟国・事務局と日本が年１回の大使級協議を行いました。また、東アジア ASEAN 経済研究センター（ERIA）では設立 15 周年に際して理事会や大使会議が開催され、次期事務総長が選任されました。そして、天皇皇后両陛下のインドネシア訪問ではカオ・キムホン事務総長を含む様々な日本とゆかりのある関係者の御接見も行われました。ビジネスやユース関連の行事でも交流が進んでいます。

一連の会議や行事の中で、この 50 周年を契機に新たな日 ASEAN 協力案件を形成するための議論が本格化しています。今回の大使通信では、これらの会議や行事について紹介しながら、協力案件をどう形成していくべきかについて、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

カオ・キムホン ASEAN 事務総長と林芳正外務大臣の会談
（2023 年６月５日、ASEAN 事務局提供）

**●カオ・キムホン ASEAN 事務総長の日 ASEAN ビジネスウィーク出席**

６月５日～９日、日 ASEAN ビジネスウィーク 2023 が、東京の会場とオンラインのハイブリッドで開催されました（アーカイブ動画）。カオ・キムホン ASEAN 事務総長は就任後初めて訪日し、開会セッションで挨拶するとともに、西村康稔経済産業大臣、林芳正外務大臣と会談したほか、日本 ASEAN センターを訪問しました。

西村大臣は開会セッションの挨拶で、活力にあふれ、変化著しい ASEAN と高い技術を持つ日本が協力し、共に未来を創っていくことが日 ASEAN 経済関係の目指すべき方向性だとして、「日 ASEAN 経済共創ビジョン」の中間とりまとめを公表しました。そして、（１）カーボンニュートラルな社会を ASEAN と共に創ること、（２）ASEAN の成長力と日本の技術力を掛け合わせて、日 ASEAN をイノベーション創出の一大中心地とすること、（３）こうした取り組みを支える人のつながりをつくること、の３点を打ち出しました。

アルシャド ASEAN ビジネス諮問評議会（ASEAN-BAC）議長もこの機会に訪日し、JETRO との間で、(1)日 ASEAN ヤングビジネスリーダーズサミットと Z 世代ビジネスリーダーズサミットの開催、(2)日 ASEAN 共創ファストトラック・イニシアティブの推進、(3)アジア・ゼロエミッション共同体（AZEC）と ASEAN Net Zero Hub の推進に関する協力文書（MOU）を締結しました。

日 ASEAN 合同調整委員会（2023 年６月６日、ASEAN 事務局提供）

**●日 ASEAN 合同調整委員会（AJJCC）**

６月６日には、ジャカルタの ASEAN 事務局で日 ASEAN 合同調整委員会（AJJCC）の年次会合が開催されました。対面の会合は４年振り、私にとっては初めてです。

本年は日 ASEAN 友好協力 50 周年ということで、会合前に地上階ロビーで 50 周年パネルの展示式典を開催しました。この機会を捉えて、ジャカルタ日本人学校中学３年生が総合学習で ASEAN 事務局を見学して次世代代表として式典に参列し、日 ASEAN 協力の最前線の熱気を感じてもらうことができました。

AJJCC 会合では、これまでの協力のフォローアップや地域・国際情勢に加え、50 周年に際しての更なる協力強化についても議論が行われました。私自身、ASEAN 全加盟国の代表を前に、日本の考えを説明するとともに加盟国毎の意見に耳を傾け、ASEAN の重層的な地域協力枠組みの意義を実感しました。特に、年末の特別首脳会議に向けて、各国がどのような分野を重視し評価しているのかを聴取できたことは大きな収穫でした。

同日晩には私の公邸で、ウラワデエ・ASEAN タイ常駐代表と共催でレセプションを開催しました。私が着任してから初めての大規模公邸行事で、日本料理とタイ料理のコラボを楽しく味わってもらうことができました。

ERIA と ASEAN 及び対話国の大使級会合（2023 年 6 月 7 日）

**●ERIA15 周年と次期事務総長選任**

翌 6 月 7 日、同じく ASEAN 事務局で、ERIA 理事会と ASEAN 及び対話国の大使級会合が開催されました。ERIA は 2008 年に設立されたので、本年が 15 周年になります。今回の理事会では、今月末に予定される西村 ERIA 事務総長の退任に先立ち、渡辺哲也 ERIA 事務総長特別顧問が次期事務総長に選任されました。

ERIA と ASEAN 及び対話国の大使級会合では、冒頭に次期 ERIA 事務総長の選任報告と挨拶がありました。引き続き、本年設立予定の「ERIA デジタル変革持続可能経済センター」の準備状況や ERIA の主要研究成果の報告があり、それを受けて対話国と ERIA の間で今後の活動方針についての意見交換が行われました。

私は閉会挨拶で、ERIA の長年にわたる貢献に敬意を表し、日本として ERIA の一層の発展に向けて新センター設立を最大限支援すると表明しました。そして、西村事務総長への感謝と渡辺次期事務総長への歓迎のことばを述べました。

同日晩には ERIA 設立 15 周年記念レセプションが盛大に開催されました。幅広い関係者が一堂に会し、ERIA が構築したネットワークの底力を感じました。

カオ・キムホン ASEAN 事務総長と御接見会場で（2023 年 6 月 19 日）

**●天皇皇后両陛下のインドネシアご訪問**

6 月 17 日から 23 日まで、天皇皇后両陛下がインドネシアを訪問されました。即位後初めての国際親善目的の外国訪問で、代表部も全館体制で対応しました。

天皇陛下は訪問前の記者会見で、日インドネシア外交関係樹立 65 周年、また、日 ASEAN 友好協力 50 周年という節目の年に、インドネシアを初めて訪問できることを大変うれしく思っていると述べられました。更に、今回の訪問では、日本とインドネシアを含む ASEAN 諸国との間に培われてきた交流の歴史に思いをはせつつ、両国間の協力によって進められてきている様々な取組の現在の状況も視察し、両国間の交流について理解を深めていきたいとのことでした。

6 月 19 日には、両陛下はカオ・キムホン ASEAN 事務総長を含む様々な日本とゆかりのある関係者に接見されました。同事務総長は両陛下に対して、本年は日 ASEAN 友好協力 50 周年を祝賀する歴史的な年であると直接お伝えしたとのことです。

両陛下は訪問後のご感想で、今回の訪問は二人揃っての初めての東南アジアの国への公式訪問でもあり、とても思い出深いものとなったと述べられています。

日 ASEAN ビジネス投資フォーラム（2023 年 6 月 20 日）

**●日 ASEAN50 周年記念事業**

天皇皇后両陛下のご訪問の最中に、日 ASEAN センターの主催で２つの日 ASEAN50 周年記念事業が開催されました。

６月 20 日～21 日には、「日 ASEAN ビジネス投資フォーラム：ASEAN インド太平洋フォーラムへの道」が、ASEAN-BAC の協力も得て、ジャカルタとオンラインのハイブリッド形式で開催されました。カオ・キムホン ASEAN 事務総長のビデオメッセージやヘリ駐日インドネシア大使他の挨拶、ASEAN 連結性マスタープラン 2025 などの講演に続き、日本、インドネシア、ベトナムから会場に集まった約 50 名の参加者間でビジネスマッチングが行われました。

６月 22 日には、ASEAN と日本のユース対象のインド太平洋循環型経済ハッカソンが、同じくジャカルタとオンラインのハイブリッドで開催されました。事前選考を通過したフィリピン、ベトナム、インドネシア、カンボジアの９チームが審査員を前にピッチを行いました。私も全てのピッチを聞き、ビジネスを通じた社会課題の解決に取り組んでいる ASEAN 各地のユースの熱意と新たな可能性を感じました。

ASEAN ジュニアフェローシップ・プログラムでの講演（2023 年 6 月 28 日）

**●日 ASEAN 協力案件をどう形成するか**

本年もいよいよ折り返し地点ということで、これらの一連の会合や行事を行う中で、年末の日 ASEAN 特別首脳会議の際に合意・発表される新たな日 ASEAN 協力案件の方向性や内容についても議論が本格化しています。

本年２月に有識者会議が取りまとめた報告書と林外務大臣が発表したインド太平洋に関する ASEAN アウトルック（AOIP）主流化支援、３月に岸田総理が発表した自由で開かれたインド太平洋（FOIP）新プランと日 ASEAN 統合基金（JAIF）への１億ドル新規拠出、５月の岸田総理の「アジアの未来」スピーチ、6 月の「日 ASEAN 経済共創ビジョン」中間とりまとめを基盤に、新ビジョンを各分野で具体化する協力案件を今から ASEAN と形成する必要があります。

その際に重要なことは、ASEAN には日本以外にも多くのパートナーがいることを十分に認識し、日本が自らの強みを生かして最大限の成果を現実化することです。このためには、各分野の重要課題に焦点を当てて、ASEAN を中心に日本が長年の信頼と技術・経験を基盤に主要協力国の役割を担い、多くのパートナーと協調しながら開かれた形の協力を推進していくことが大切です。

検討すべき個別分野は多々あります。海洋協力、インフラ・交通、デジタル、エネルギー移行・脱炭素、循環型経済・生物多様性、農業・食料安全保障、都市化、金融、経済共創、保健、防災、スポーツ、観光、法務、防衛、平和構築、科学技術・知的交流、青少年交流・文化交流など、分野毎の特性を踏まえ、協力案件形成を積極的に進めているところです。

６月 28 日には ASEAN 事務局で、第二回 ASEAN ジュニアフェローシップ・プログラム（AJFP）の 13 名の参加者に対して、ASEAN と日本のパートナーシップの（１）主要成果、（２）比較優位、（３）今後の課題と機会の３点に焦点を当ててのプレゼンと意見交換を行いました。参加者は全加盟国と東ティモールの政府で ASEAN を担当する若手職員で、ASEAN の未来を担うエネルギーを感じました。

７月にはジャカルタで ASEAN 関連外相会議、９月にはジャカルタで ASEAN 関連首脳会議、12 月には東京で日 ASEAN 特別首脳会議が開催されます。その他、７月の日 ASEAN 特別法務大臣会合をはじめ、幅広い分野で日 ASEAN 閣僚会合や 50 周年記念事業も予定されています。例えば、９月末にはジャカルタのプラザ・スナヤンで、官民連携による「日 ASEAN フェア（仮称）」の開催を準備中です。

日 ASEAN 友好協力 50 周年の機会を最大限に生かし、次の 50 年間、更にはその後に向けて協力が一層発展するよう、皆さんと一緒に取組を進めていきたいと思います。引き続きよろしくお願い申し上げます。

ASEAN 代表部大使
紀谷昌彦